

## ■学校経営のポイント

### 週案の整理と今後の課題設定

小島 宏

週案は、単なる学習計画と振り返りの記録ではない。教師の1年間のドラマ（様々な工夫と反省に基づく改善の足跡）である。これを有効に活用して、次年度以降の実践的指導力（学級経営力、学習指導力、生徒指導力など）向上の手がかりとさせたい。

#### 成果を明確にする

この1年間、子どもと向き合って様々なことを実施してきた。自分のしてきたことを振り返り、子どもが伸びたこと、効果のあった指導の仕方、保護者との関係でうまくいったことなど、成果（成功したこと）を大小にかかわらず週案の中から抜き出し整理させる。

自分を「肯定的に評価できる部分」を自覚することは、自信につながり、教師を前向きにする。

#### 失敗と原因を探らせる

今度は逆に、失敗したこと、うまくいかなかったことなどを拾い出させる。少々ほろ苦いものがこみ上げてくるが、週案を振り返り、いくつか書き出させてみる。そして、失敗の原因を可能な限り見付けさせる。自分で分からなかったら、先輩に相談させたり、同僚と情報交換させたりしても良い。

失敗したことを悔やんでいるよりも、今度からそうならないように工夫しよう、がんばろうと、克服へ向けて取り組むようにさせることが重要である。

#### 解決すべき課題を見付けさせる

子どもの学び合い（知的コミュニケーション）の育て方が難しかった、いじめの指導と対応が不十分だった、ICTを活用した授業展開が思うように進まなかったなど、解決すべき課題を見付けさせることも重要である。

自分の学級経営や学習指導、生徒指導などにおけ

る課題を見付けさせ、今後それをどのように解決していったらよいか考えさせる。これが、次年度以降の研修課題になってくるようにする。

課題のあることを負担に感じる必要はない。課題を放置しておくことが問題で、解決に向けて行動させるように促すことが重要である。教師としての力量が高まってくると、それにしだいで課題も様々にかつ難しいものになってくる。本人を励まし、少しの進歩を認め、褒め、前向きにしたい。

#### 自分に足りないことを確認させる

これは少々難しい注文である。「自分にさらに必要なこと」や「新しく取り入れたほうがよいこと」という視点から振り返らせることも大切である。経験10年以上の教師に、無意識のうちにベテラン意識が出て、子どもの実態や変化、時代の求めに無頓着になって、結果的に進歩が停滞している状況が見られる。週案の記録を手がかりに「自分はこれでいいのか？」と自問させることも必要である。

#### 他の教師から学んだことを整理する

校長や教頭、先輩・同僚教師から学んだことも整理して自覚させたい。これは自分の教師としての成長のためである。後輩教師を指導・支援する際にも役立つ。他の教師から謙虚に学び取ることができる教師には、将来性がある。

#### 次年度の研修課題を設定させる

週案を振り返らせ、成果や課題などを明確にさせたら、それを整理させ、次年度の研修課題を設定するよう指導する。できれば、継続して一層良くする、課題を改善する、新しいことを学び取るなど質の異なる課題を設定させるようにする。

資質能力の高い教師は、校長の考える学校経営を実現する最大の担い手であり財産である。

（こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長）

●校長のために編まれた“読んで書き込む”スケジュール帳！

## 『校長 仕事ノート』

【監修】小島宏 【企画制作】教育開発研究所 A5判・260頁／定価2,310円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）